資料　5-1

河川事業委員会報告事項

※岩木川河川整備委員会：平成 26 年７月 15 日審議

平成２６年　７月　２５日

国土交通省　東北地方整備局

再評価における事業評価監視委員会への報告根拠について

評価別	対象事業	学識経験者等から構成される委員会での審議		評価結果の事業評価監視委員会への報告	
		審議根拠	報告根拠文	審議根拠	報告根拠文
再評価	・岩木川直轄河川改修事業	『国土交通省所管公共事業の再評価実施要領』 第6の6項 H23.4.1改定	河川事業、ダム事業については、河川整備計画策定後、計画内容の点検のために学識経験者等から構成される委員会等が設置されている場合は、事業評価監視委員会に代えて当該委員会で審議を行うものとする。	『河川及びダム事業の再評価実施要領細目』 第6 H22.4.1改定	実施要領第4の1（4）又は第6の6の規定に基づいて審議が行われた場合には、その結果を事業評価監視委員会に報告するものとする。
再評価	・津軽ダム建設事業	同上	同上	同上	同上

河川整備委員会・河川整備学識者懇談会等での審議結果一覧

【再評価の審議結果】

事業名	該当基準	総事業費（億円）	費用対効果分析（B/C）	対応方針（案）	審議の委員会・懇談会	
					委員会・懇談会名（開催月日）	審議結果及び意見
岩木川直轄河川改修事業	再評価後3年	433	2.9	事業継続	○岩木川河川整備委員会	平成26年7月15日　岩木川河川整備委員会において審議 ・事業の継続は妥当と判断する。 （地方公共団体の意見（青森県知事）） ・平成26年6月27日付け、国東整企画第35号で依頼のありました標記について、次のとおり回答します。 ・事業の継続に異存はありません。 ・なお、事業の執行にあたっては、引き続き、一層のコスト縮減に努めていただきますようお願いします。
津軽ダム建設事業	再評価後3年	1,620	2.6	事業継続	○岩木川河川整備委員会	平成26年7月15日　岩木川河川整備委員会において審議 ・事業の継続は妥当と判断する。 （地方公共団体の意見（青森県知事）） ・平成26年6月27日付け、国東整企画第35号で依頼のありました標記について、次のとおり回答します。 ・事業の継続に異存はありません。 ・なお、事業の執行にあたっては、引き続き、一層のコスト縮減に努めていただきますようお願いします。

再評価結果一覧

【公共事業関係費】
【河川事業】
（直轄事業）

事業名 事業主体	(a) 該当 基準	(b) 総事業費 （億円）	(c) 費用便益分析 貨幣換算した便益：B（億円）	便益の内訳及び主な根拠	費用：C （億円）	B／C	(d) 貨幣換算が困難な 効果等による評価	(e) 再評価の視点 （投資効果等の事業の必要性、事業の進捗見込み、コスト縮減等）	(f) 対応方針 （案）	(g) 審議結果及び意見	(h) 備考
岩木川直轄 河川改修事業 東北地方整備局	再評価後 3年	433	1,200	【内訳】 被害防止便益 ：1,185億円 残存価値 ：15億円 【主な根拠】 年平均浸水軽減戸数：8,691戸 年平均浸水軽減面積：1,751ha	421	2.9	○昭和33年9月洪水、昭和52年8月洪水において甚大な浸水被害が発生。 '○近年においても、平成2年9月、平成14年8月、平成16年9月、平成25年9月洪水により被害が発生。 ○昭和52年8月洪水と同規模の洪水の発生を想定した場合。 ・想定氾濫区域は約30,400ha、想定氾濫区域内戸数は約32,000戸。 ・整備計画規模の洪水が発生した場合、弘前市をはじめ6市5町2村では想定死者数（避難率40%）約48人と想定される。 等が想定され、早期に浸水被害を軽減する必要がある。	①事業の必要性等に関する視点 ・岩木川水系における治水安全度は、未だ十分ではなく、近年でも、平成25年9月に発生した洪水により、被害が発生しており、早期の治水対策が必要である。 ②事業の進歩の見込みの視点 ・概ね30年間の整備として、昭和33年8月洪水、昭和52年8月洪と同規模の洪水が発生しても、床上浸水等の重大な家屋浸水被害を防止するとともに、水田等農地についても浸水被害の軽減に努める。 ・当面の整備（今後概ね4年間）として、平成25年9月洪水に対し、中流部における堤防整備、河道掘削を実施する。 ③コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点 ・河道整備では、河道掘削による発生土砂の堤防整備へ有効活用を図るとともに、他事業と調整しながら有効活用を図る。 ・工法の工夫や新技術の積極的な採用等によりコスト縮減に努める。 ・管理河川に生い茂った樹木を伐採してくれた方々へ無償提供を行うなど、従来は廃棄物として処分していたものを有効活用し、処分費等のコスト削減を図っている。 ・代替立案等の可能性については、治水目標を達成するため総合的に比較した結果、「津軽ダム＋河道掘削」が最も効率的と判断されている。	事業継続	【学識経験者等から構成される委員会】 ○岩木川河川整備委員会 ・事業の継続は妥当と判断する。 【地方公共団体の意見】 ○青森県知事 ・平成26年6月27日付け、国東整企画第35号で依頼のありました標記について、次のとおり回答します。 ・事業の継続に異存はありません。 ・なお、事業の執行にあたっては、引き続き、一層のコスト縮減に努めていただきますようお願いします。	当面の整備 における B/C＝7.4
津軽ダム建設事業 東北地方整備局	再評価後 3年	1,620	4,806	【内訳】 被害防止便益 ：3,431億円 流水の正常な機能の維持に関する便益：1,360億円 残存価値 ：15億円 【主な根拠】 洪水著設に係る便益 年平均浸水軽減戸数：3,878戸 年平均浸水軽減面積：590ha 流水の正常な機能の維持に関する便益 流水の正常な機能維持に関して津軽ダムと同じ機能を有するダムを代替え施設とし、代替法を用いて計上	1,854	2.6	○昭和33年9月洪水、昭和52年8月洪水において甚大な浸水被害が発生。 '○近年においても、平成2年9月、平成14年8月、平成16年9月、平成25年9月洪水により被害が発生。 ○昭和52年8月洪水と同規模の洪水の発生を想定した場合。 ・想定氾濫区域は約30,400ha、想定氾濫区域内戸数は約32,000戸。 ・整備計画規模の洪水が発生した場合、弘前市をはじめ6市5町2村では想定死者数（避難率40%）約48人と想定される。 等が想定され、早期に浸水被害を軽減する必要がある。	①事業の必要性等に関する視点 ・津軽ダム建設事業は、岩木川水系の洪水被害の軽減、流水の正常な機能の維持、かんがい用水、水道用水、工業用水の供給及び発電を目的としている。 ・津軽ダムの完成後は、概ね100年に1回程度発生する降雨による洪水を想定した場合、浸水面積については約3,400ha、浸水世帯数は約11,800世帯、床上浸水については約9,200世帯の被害軽減効果が発揮する。 ②事業の進歩の見込みの視点 ・津軽ダムの建設事業は、平成25年度末の本体コンクリート打設量は、93%完了し、平成26年度には本体コンクリート打設が終了する予定である。 ・また、来年度（平成27年度）に試験湛水を開始し、2年後の平成28年度には津軽ダム建設事業が完了する見込みである。 ③コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点 ・原石山や付替道路の変更によるコスト縮減を図っている。 ・「堤防引堤」「堤防嵩上げ」「低水路掘削」「遊水地」「ダム」を総合的に比較し、現在の「ダム」案として整備を進めている。	事業継続	【学識経験者等から構成される委員会】 ○岩木川河川整備委員会 ・事業の継続は妥当と判断する。 【地方公共団体の意見】 ○青森県知事 ・平成26年6月27日付け、国東整企画第35号で依頼のありました標記について、次のとおり回答します。 ・事業の継続に異存はありません。 ・なお、事業の執行にあたっては、引き続き、一層のコスト縮減に努めていただきますようお願いします。	

資料　5-2

河川事業委員会報告事項
（参考資料）

※岩木川河川整備委員会：平成 26 年７月 15 日審議

平成２６年　７月　２５日

国土交通省　東北地方整備局

岩木川直轄河川改修事業・津軽ダム建設事業　位置図



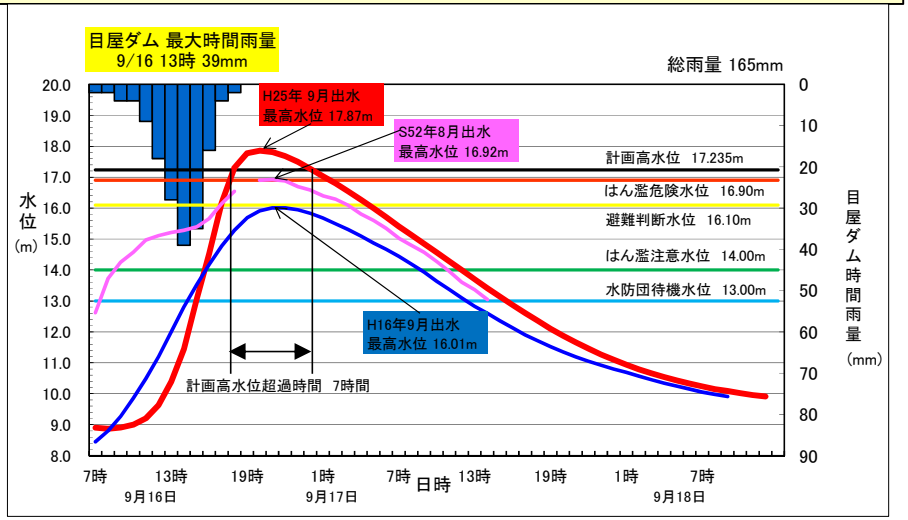
岩木川における平成25年9月洪水（台風18号）の概要

- 平成25年9月に発生した台風18号により、岩木川流域では9月16日4時頃から19時頃まで継続的に雨が降り続き、岩木川水系の上流域に総雨量120mm以上の降雨がまんべんなく降った。特に、平川上流域には総雨量180mm以上の降雨が集中した。
- この降雨に伴い、岩木川直轄管理区間の全ての観測所で避難判断水位を超過し、幡龍橋観測所では観測史上第1位となる17.87m（計画高水位を64cm上回る）を記録するとともに、計画高水位を約7時間にわたり超過するなど、大規模な出水となった。

最高水位順位表

単位：m

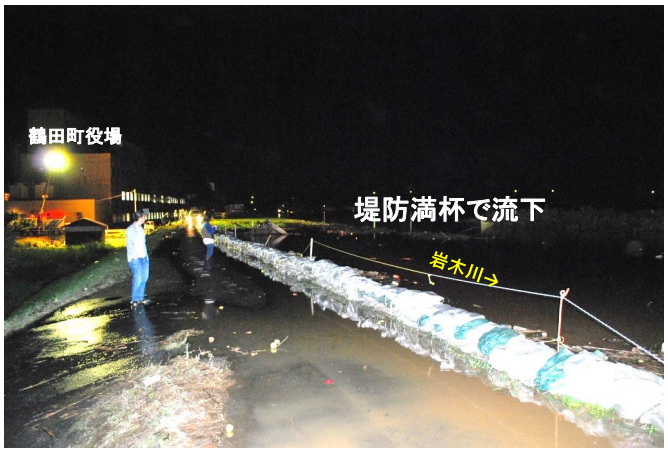
観測所名	第1位			第2位			第3位		
	年月日	時間	最高水位	年月日	時間	最高水位	年月日	時間	最高水位
カミイワキバシ 上岩木橋	H9.5.8	11:00	43.71	S52.8.5	19:00	43.41	H25.9.16	15:00	43.40
サンゼジ 三世寺	H25.9.16	18:30	19.43	S52.8.5		18.80	S50.8.20	18:00	18.40
バンリュウバシ 幡龍橋	H25.9.16	19:50	17.87	S52.8.6	6:00	16.92	S50.8.20	18:00	16.86
ゴショガワラ 五所川原	H33.9.19		5.34	H25.9.17	2:10	5.24	S35.8.3	16:00	5.05
シゲタ 繁田	S33.9.19 S52.8.6	4:00 11:00	6.30	S47.7.9	18:00	6.12	S35.8.4	1:00	6.00
ワカミヤ 若宮	S56.8.23	23:00	2.03	H25.9.17	12:30	1.92	H16.9.8	12:00	1.82
モモタ 百田	S50.8.20	14:00	5.24	H25.9.16	17:00	4.96	S35.8.3	10:00	4.66



バンリュウバシ
幡龍橋観測所水位の変化状況



カシワ
水防活動状況（つがる市柏地区）



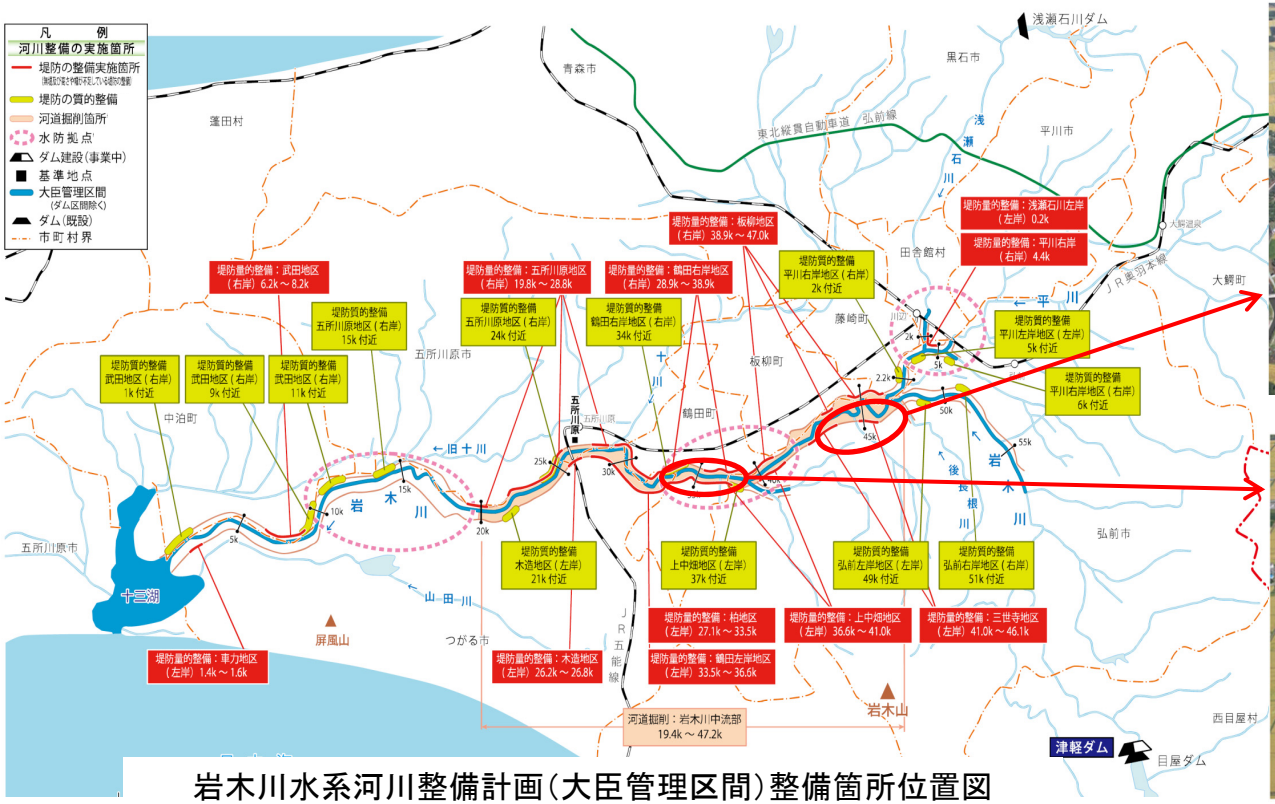
ツルタマチ
出水状況（鶴田町鶴田地区）



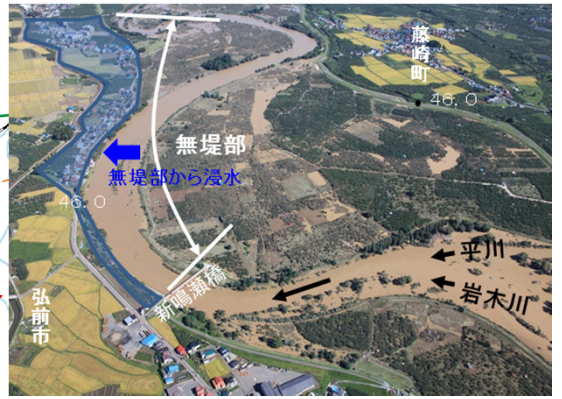
ヒロサキシオオカワ　サンセイジ
浸水防止対策実施状況（弘前市大川・三世寺地区）

岩木川直轄河川改修事業【事業概要】

➢ H25.9洪水時に浸水被害が発生した無堤部の解消、計画高水位を超過した区間については、同規模洪水が発生しても計画高水位を超えないよう、整備計画スケジュールの前倒し、堤防整備・河道掘削を実施する。



岩木川水系河川整備計画（大臣管理区間）整備箇所位置図

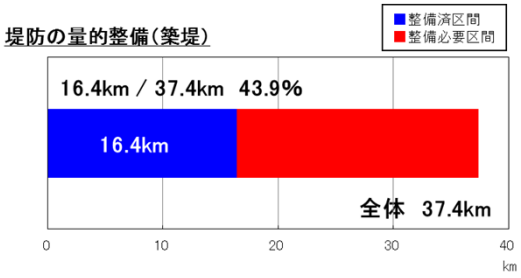


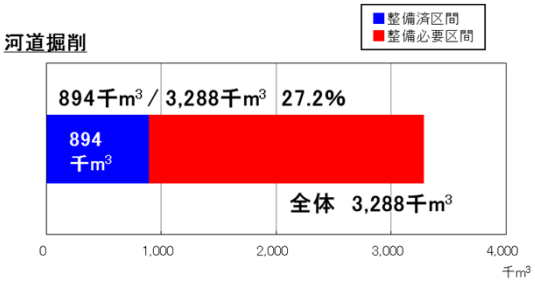
弘前市三世寺地区（H25.9.17　撮影）



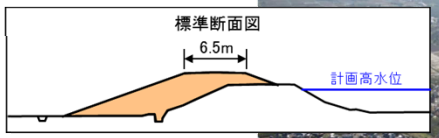
鶴田町鶴田地区（H25.9.17　撮影）

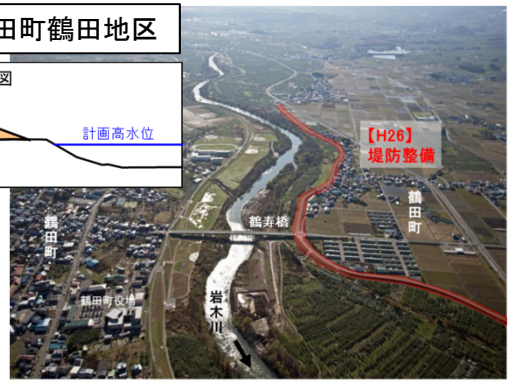
➢ 平成25年度末時点で堤防整備は約44%、河道掘削は約27%まで進捗。
➢ 今後は築堤事業に並行して河道掘削事業を進めていく予定。





【H26堤防整備】鶴田町鶴田地区

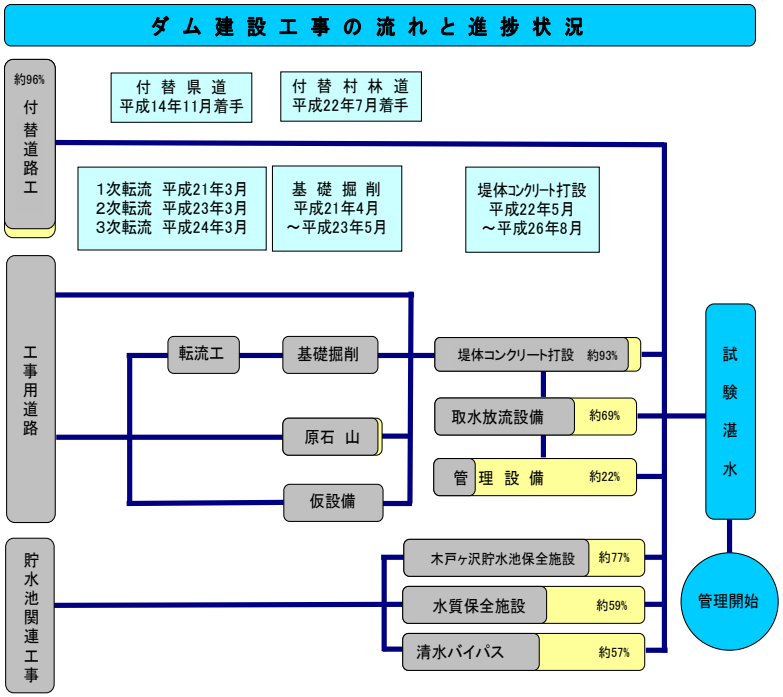




津軽ダム建設事業【事業概要】

＜事業の進捗状況＞

現在、平成28年度完成に向けて、本体工事・付替道路・水質保全施設等の工事を実施しています。



H25年度末進捗状況（事業費ベース）



総事業費 ： 約 1，620億円

前回再評価時
H22年度末進捗状況（事業費ベース）
約 747億円（約46．1%）

※進捗率の考え方
・堤体コンクリート打設 ： コンクリート打設量
・付替道路 ： 延長
・取水放流設備 ： 事業費
・管理設備 ： 事業費
・木戸ヶ沢貯水池保全施設 ： 事業費
・水質保全施設 ： 事業費
・清水バイパス ： 延長



現在の状況（H25.9撮影）

施工済み
未施工

＜事業の進捗の見込み＞

平成26年度には本体コンクリート打設が終了する予定です。また、付替県道においても平成26年度に供用する予定としています。来年度（平成27年度）に試験湛水を開始し、2年後の平成28年度には津軽ダム建設事業が完了する見込みです。



ダム左岸部状況（平成26年5月）

